

「フィルム文化を存続させる会」 御中

平成 18 年 9 月 8 日
富士写真フイルム株式会社
お客様コミュニケーションセンター
センター長 藤井 秀夫



回 答 書

拝啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、弊社製品をご愛顧いただき、また先日はわざわざご来社を賜り、誠に有難うございます。

ご来社の際にご質問いただきました内容につきまして、お客様コミュニケーションセンター藤井より、下記の通り回答させていただきます。

1. 全国数箇所で見像していたが、現在調布にある設備以外がどうなったかについて
現在調布にある現像機は、大阪(堺)から移設したものです。
その他、全国で処理しておりました機器はすべて廃却しております。
2. 現像数量実績は、海外分がどのくらいのウェイトかについて
全体数量の5%程度(平均すると50本/月ぐらい)が海外からの入荷分です。
内訳は、ドイツ=60%、フランス=30%、その他(アメリカ、インド、オーストラリアなど)10%となっております。
入荷は、ドイツ以外、不定期ですのでかなりバラツキがあります。
3. 現像機器の移設の可能性について
現像機器の移設は、以下の理由により困難であると考えております。
 - ①当社の現像機器も既に老朽化しており、長期の継続使用には耐えない状況です。
 - ②仮に移設するとした場合、運搬費や点検作業費が発生します。
詳細は移転先を含め見積もりが必要ですが数百万円になる可能性があります。
 - ③現像機に精通した技術者の確保が必要になります。
 - ③需要縮小する中、現像に使用する薬品(外部調達)を確保するには、長期供給契約 or まとめ買い、さらに単価アップが予想されます。

いただきましたご質問につきまして上記の通りお答えさせていただきます。

本件に関連しまして、ご質問などがございましたら、ご連絡頂けます様、宜しくお願ひ申し上げます。

敬具